

皆さん、1ヶ月のご無沙汰でしたっ！先月は台風16号が、今月には台風18号が大きな被害を置いていってくれましたが、皆さんのところは大丈夫でしたでしょうか？被害を受けられた方々には心からお見舞い申し上げます。実は私も8月30日は大分県に入るのに飛行機が欠航して東京で足止めを食らい、その後9月4日から奄美大島に入ったのはいいのですが、今度は喜界島で2日間も台風18号で身動きとれず、引きこもり？をさせられました。おかげで？この原稿も随分と八力がいきました！さて、今月はまず堆肥作りの基本的なところからお話させていただきます。

堆肥とは...？

みなさんは“堆肥”という言葉聞いてどんなものをイメージしますか？牛舎から出してすぐのものとか、堆肥舎に置いてはあるのですが、右の写真1のように表面は乾いていても、ちょっとほっくり返すと生のウンコがそのまま、鼻を突くような悪臭がしてくるもの、あるいは私もよく見かけるのですが、堆肥舎からウンコ汁が黄河？の様に流れ出していてハエもわんさか飛び回っているようなものとか。もし、このようなものを“堆肥”と思っている人がいたら今日からはその考えを改めましょう！

こういうものは確かに“堆肥の原材料”ではありますが、決して“堆肥”とは言いません！

堆肥（または堆厩肥）とは

「ワラやモミガラなどと家畜の糞尿を混合し、積み上げて“作ったもの”で、**発酵分解処理を経た、あるいはその途中経過のもの**」をいいます。

当然、そうしてできた堆肥には悪臭とかウンコの汚物感はありません。

もちろん畑に投入した場合、土の中に住んでいる微生物たち（前回紹介しましたよね！）にとってもおいしい？ごちそうですし、有機質肥料として作物にとっても素晴らしい栄養源ともなり、その品質向上にもとても役に立ちます。

ですから、何にも手をかけずにそのまま畑や堆肥舎に置いてあるものは堆肥ではなくて、ただ単に畜産業から排出される“産業廃棄物”つまり“ゴミ”（糞尿混合物）なのです。

しかし、ちゃんと発酵させて堆肥化すれば、このゴミは畑にとってとても有効な宝物に変身します。（写真2・写真3）

皆さんだって、どっかの工場がその工場排水とかゴミとかをそのまま川に流したり、その辺にぼんぼん捨てていたら頭に来ちゃいますよね？

ましてそれが臭かったり環境汚染になる



写真1



写真2



写真3

ような代物ならなお更です。

つまり、発酵処理（堆肥化）していないウンコを畑にまいたりその辺にほったらかしていたら当然臭いし、地下水への浸透、汚染、あるいは雨が降ったりすれば近くの河川に流れ込み、さらには海に汚水が流れ込んで海洋汚染へとつながります。

これは畜産業を営んでいない人たちにとってみれば由々しき問題です！

でも、このような環境汚染によるさまざまな弊害は、巡りめぐって最終的にはぜ～んぶ自分たちに降りかかってくることなんですよ！それも世代を超えて…。

環境汚染問題というのは急激にやってくるものではなく、何十年、何百年もかかって徐々にその弊害が出てくるものです。

そして、その弊害が目に見えて来た時には相当深刻な状態に陥っている、あるいは取り返しのつかないところまできちまっているとんでも過言ではないのです。

この11月から罰則を伴って施行される法律は、このような畜産現場からの環境汚染の防止を目的にしています。ですから畜産に携わっている皆さんも、せめて畜産業界からは環境汚染をしないように最大限の努力はしましょうね！

なぜ…？

さて、それではなぜウンコは堆肥化されないでほったらかされているんでしょう？
私は全国あちこちの畜産現場に行ってその理由を聞いてまとめてみました。

1. 今までやったことがなく面倒くさいし、手間がかかる
2. 歳をとってしまって、手間がない
3. やっても売れないからお金にならない（直接的な収入にならない）
4. 場所、施設、作業機械がない（そろえるにはお金がかかるし、その先立つものもない）
5. やってみたけどうまく作れない、時間がない（時間は作るものですよ！）
6. 臭いものはさわりたくない（臭いのが当たり前？）
7. 畑などに捨てておけばそのうち無くなった！

と、だいたいこんな理由でした。

皆さんも身に覚えがありませんか？

でも、これからはもうこんな言い訳やわがまま？は言ってもらえませんよ！

次に私は堆肥を使う側の耕種農家（畑作物を作っている人たち）の方々にも、なぜ堆肥を使わないのかとお話を聞いてみました。すると

1. 使いたいけど良い物がない
 - (イ) 住宅地が近くて、臭いものは散布できない
 - (ロ) 木質（オガクズなど）が未分解で、作物の成育を阻害する
 - (ハ) その時々で品質が不安定
2. 使うのに手間がかかる（化学肥料は手軽で安い）
3. 高齢化による労力不足（散布用機械、手間がないし面倒くさい）
4. 堆肥の有効性を理解していない（化学肥料を入れれば堆肥は必要ない）
5. 地域性（近くに畑が少ない、畜産農家と仲が悪い？）

などの意見が聞かれました。

中でも1.に上げてある理由が一番多かった事から、良い堆肥さえ作ることが出来れば今の時代、まだまだ需要はたくさんあると思います。

ですから皆さん、まずは頑張って“良い堆肥”“ホンモノの堆肥”を作ってみましょうネ！
ポイントを押さえて、そのコツさえつかめばそんなに難しいことはありませんよ！

飼養規模に応じた処理方法を！

あと、堆肥処理をする時に忘れていけないことは、自分の農場の規模の事です。

つまり、自分の農場から出てくるウンコの量（敷料も含めて）がどの程度なのか？ということ

す。今回の法律では飼養頭数が10頭以下は対象外になっていますが、現場は10頭規模から多いところでは1,000頭を超す大規模農場まであります。

飼養頭数が多いと言うことは当然出てくるウンコの量も多い。堆肥舎施設を作るにしても大きなものが必要ですし、経費も半端じゃあないです。さらに、堆肥を作ったにしても、それをどこかにさばかなくてはなりませんよね？

売るとしたならその販売先、畑に還元するにしてもその畑の面積を近間にしっかり確保しておかなければなりません。それも牛を飼っている間は継続的です。

もちろん、どちらにしても“堆肥の品質”を問われます。

量が多いだけに、これって結構たいへんな事ですよ！だって、出口がなければ農場はあつという間に“フン詰まり”になりますもんね。

これに比べると中、小規模の場合（私はだいたい100頭規模くらいと考えています）はこんな悩み？が少ない分、まだ恵まれていると言っても良いでしょう？

そこで、問題を解決するために私の一つの提案として、飼養規模による堆肥処理の方法とそのメリットを次のようにまとめてみました。

大規模農場

堆肥のリサイクル：水分調整材、敷料として牛舎に戻す（写真4，写真5）

- ・ 敷料（オガクズなど）の購入費を削減する
- ・ 敷料購入量が減ることによって、農場全体の堆肥量が減る...置き場面積の縮小、労力削減
- ・ 最終的には自分の農場から堆肥を出さない、あるいは最小限にする



写真4

中、小規模農場

イ．良質堆肥の生産

- ・ 堆肥作りの技術を身につける
- ・ 悪臭公害、環境汚染を防止する
- ・ 発酵分解によるカサ減り、品質向上、置き場面積の縮小
- ・ 畑への負荷軽減、土の改善、作物の品質向上
- ・ 近隣農家への引き合い...数軒でOK

ロ．ウンコを出さない牛舎の建設（特に繁殖牛）

- ・ ウンコ排出量の削減
- ・ フン出し労力の軽減
- ・ 堆肥舎面積の縮小

この“ウンコを出さない牛舎”（私たちはシマシマ牛舎とかセービング牛舎＜省力牛舎＞と呼んでいます）については、後日詳しく紹介させていただきますが、

早く知りたい方は農文協さんから出版されている“現代農業”という雑誌の5月号と、8月25日に発行された農業共済新聞の九州版に記事として大きく紹介されていますので見てくださいな。あっ、そうそう！松本大策先生が連載されている“養牛の友”という雑誌の9月号にもコラムにも紹介されています！）

ということで、みなさんはそれぞれの地域や立地の条件、農場規模、作業機械の有無、大小、堆肥処理にかけられる労力の時間などの条件が異なります。

これらの条件を十分に検討した上で、自分の農場に一番あった良い方法を見つけ出して、実践していきましょう！

その方法は必ずあるはずですよ！

それでは今月はこれくらいにして、次回はリサイクル堆肥と畑地還元用堆肥の違いと作り方からお話しさせていただきますね。 つづく



写真5